


### (3) 具体的対応

落雷による事故は、生命に危機を及ぼす重大な事故になりやすいが、適切な判断により事故を防ぐことが可能であることから、屋外での活動中において、天候が急変しそうな予兆がある場合には、気象に関する情報を収集するとともに、早めに中断し避難等の対応を行うことが重要となります。

本県は落雷の多い地域であり、また落雷は竜巻よりも発生頻度が高いことから、教職員と児童生徒が落雷について正しく理解し、状況に応じて自分の身を守れるよう指導しておくことが大切です。

① 落雷への対応

予想される状況	教職員の対応	児童生徒等の対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>雷注意報の発表。</li> <li>真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。</li> <li>雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。</li> <li>ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。</li> <li>大粒の雨や雹(ひょう)が降り出す。</li> <li>近くに雷が落ちる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりした場合は速やかに屋内に避難させる。(雷鳴が速くても雷雲はすぐ近づいてくる。また雨が降ってなくても落雷はある。)</li> <li>校庭やプールでの活動、平地でのハイキング等、近くに高いものがない場所での活動の場合は特に注意し、速やかに活動を中止し、屋内に避難させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の指示に従い、すみやかに屋内に避難する。</li> </ul>
		<p style="text-align: center;"><b>【登下校時】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雷の活動は短時間でおさまることが多いので、無理に帰宅せず、屋内へ避難をする。</li> <li>自転車に乗っていたら、すぐに降りて安全な場所に避難する。</li> </ul>
<p><b>【避難場所等に関する留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建物の中、自動車、バス、列車の中等への素早い避難が求められる。</li> <li>軒先や外壁は雷の通り道になること等に注意する。</li> <li>雷は高い場所に落ちやすい。立ち木に落ちると被害を受けるので、立ち木から離れたところに避難する。</li> <li>近くに避難する場所がない場合は、しゃがみこむ等できるだけ姿勢を低くする。</li> </ul>		 <p>軒先への避難も注意が必要</p>



予想される状況	教職員の対応	児童生徒等の対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>雷の活動が止む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雷鳴が止んでから20分程度は落雷の危険があることから安全な場所での待機を指示する。</li> <li>一つの雷雲が去っても、次の雷雲が近づく場合もあるので、新しい雷雲の接近に常に注意する。</li> <li>その後は、気象情報等で安全を確認の上、活動を再開するかどうか判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の指示に従い、安全な場所で落ち着いて待機する。</li> </ul>
		<p style="text-align: center;"><b>【登下校時】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雷鳴が止んでから20分程度は落雷の危険があることから、安全な場所で待機する。</li> <li>一つの雷雲が去っても、次の雷雲が近づくことを想定し、新しい雷雲の接近に常に注意する。</li> </ul>

**【安全な空間に避難できない場合の対応】**

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ(保護範囲)に避難します。

高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。

雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。

